

## カウントダウン

第三話 (プロモーションを含みます)

カズマは眠かった。

昨晩の当直はいつも通り一睡もできなかった。すぐに帰宅せずにぐずぐずしているのは、朝の導入がひと段落するのを待っていたからだ。というのも、部長に促されて調べた「病院赤字の謎」の答えは、診療報酬が実際の経費と釣り合っていないからという結論だった。ならば診療報酬を増やすしかない。そう考えたカズマは、どうしたら診療報酬が上げられるのかを部長に聞いた。すると、専攻医との導入を終えた部長が控室に戻ってきたので、カズマは近寄って声をかけた。

「明智先生」

「お、まだいたのか。昨日の夜もいろいろ大変だったみたいだね。おつかれさま。はやく帰って休んだら？」

「伺いたいことがあるのですが、いいですか」

部長は一瞬だけカズマの顔を見つめ、話の予想がついたようだった。

「もちろん。私でわかることならば」

「先週言われた診療報酬と経費を調べてみたんです。びっくりしました。あまりにも収支のつり合いがとれていない」

カズマは収支のメモを部長に渡した。

↓ 22w 話

収入		支出	
手術料	36,000 円	手術人件費 (外科医、看護師)	64,455 円
閉鎖循環式全身麻酔 5	60,000 円	麻酔人件費 (麻酔科医)	166,830 円
麻酔管理料 1	10,500 円	麻酔人件費 (看護師、臨床工	15,142 円
(麻酔薬剤料)	(8,000 円)	学技士、薬剤師、クラーク)	
		手術材料費	30,490 円
		麻酔関連材料・機器料	56,708 円
総計 (麻酔薬剤料含めず)	106,500 円	総計	333,625 円

口蓋扁桃摘出術の  
収支計算  
損失：227,125 円

眼内反手術の収支計算 損失：211,240 円

収入		支出	
手術料 (両側)	手術料 (両側)	手術人件費 (外科医、看護師)	64,455 円
閉鎖循環式全身麻酔 5	閉鎖循環式全身麻酔 5	麻酔人件費 (麻酔科医)	166,830 円
麻酔管理料 1	麻酔管理料 1	麻酔人件費 (看護師、臨床工	15,142 円
(麻酔薬剤料)	(麻酔薬剤料)	学技士、薬剤師、クラーク)	
		手術材料費	17,455 円
		麻酔関連材料・機器料	56,708 円
総計 (麻酔薬剤料含めず)	109,350 円	総計	320,590 円

心室中隔欠損閉鎖術の収支計算 利益：324,726 円

収入		支出	
手術料 (乳幼児加算)	1,046,400 円	手術人件費 (外科医、看護師)	847,530 円
閉鎖循環式全身麻酔	294,960 円	麻酔人件費 (麻酔科医)	535,250 円
1:59 分		麻酔人件費 (看護師、臨床工	15,142 円
2:41 分		学技士、薬剤師、クラーク)	
3:95 分		手術材料費	175,504 円
5:100 分		麻酔関連材料・機器料	56,708 円
(幼児加算)			
術中経食道心エコー連続			
監視加算			
麻酔管理料 1	10,500 円		
人工心臓 (初日乳幼児)	603,000 円		
(麻酔薬剤料)	(41,840 円)		
総計 (麻酔薬剤料含めず)	1,954,860 円	総計	1,630,134 円

\*\*\*

部長はカズマの渡したメモを眺めて小さく頷いたように見えた。「明智先生、これでは僕たちがどんなに一生懸命患者さんの治療をしても、病院は赤字になる一方です。診療報酬を上げてもらわないといけないのではないのでしょうか」

数秒の間があった。

「……ということは、先生は、診療報酬がどうやって決められていくかは、もう勉強したんだね」

そう問われることは予想していて、検索はしていた。

「まず全体の改定率が総理大臣と厚生労働大臣で決められます。その範囲内で、具体的な内容については中経協 (中央社会保険医療協議会) で決めていくということでした。令和 6 年度は 0.88% のプラス改定だったということです」

「ならば、そのうち 0.61% は医療従事者の賃上げ分 (ベースアップ評価料等) に相当していることやプラス改定分のほとんどを医療従事者の処遇改善に使うように設計されていることなども、調査済みかな」

カズマは言葉につまった。部長には、今日、この話をすることを事前に伝えていたわけではなかった。なのに、細かな数字がスラスラと出てくるというところは、部長は常に診療報酬のことが頭にあるのだろうか。それは、上に立つ者なら誰でもそうなのだろうか。

「そこまで細かなことは把握していませんでした」

「まあ、普通はそうだね。だけど、せつかならずはこれを読むといいよ。というか、もう読んでいるかな」

部長は控室の書棚に並ぶ雑誌から、一冊を抜き出してカズマに渡した。リサだった。2022 年 12 月号。表紙の目次には、「快人快説…令和 4 年度診療報酬改定からみる日本の医療」とあった。前回の改定時のことが載っているようだ。頁をめくると、書いたのは大阪大学の山本俊介先生。調べ物をしているにふち当たったことのある名前だった。

「山本先生の記事ですね。確か、疼痛管理チーム加算を獲得したときのキーパーソンだとか。恥ずかしながら、リサは特集メインで読んでいて、この記事の存在は気がついていませんでした」

「4 年前だと、先生はまだ専門医になっていない頃だね。その頃は、臨床力をつけることが重要視されるだろうから、診療報酬の記事を読んでいないの

はちつとも恥ずかしいことじゃないと思うよ」

「その頃は」をやや強調されたような気がした。

「帰ったらすぐに読みます」

部長の目をまっすぐに見つめ、感じ取ったことを伝え、リサを書棚に戻した。

「それ、ちゃんと返却すれば、持っただけでもいいんじゃないかな」

「ありがとうございます。ただ、リサは専攻医になってから年間購読を続けていますので、自宅にあるはずですよ。自分の読みます」

部長はウンウンと頷いて立ち上がり、中央監視のモニターを見に行った。

結局、いい時間になったので、幼馴染が経営する「清来軒」で昼食を済ませてから帰ることにした。

「いらつしやい！ おや、この時間に来るとは、昨日はお疲れ様だったんだ」

「うん、大変だった。そして、また宿題が出た」

「病院赤字の話か」

「そう。先週、診療報酬を増やしてもらわないといけないって言うってただ、これはそう簡単じゃなさそうなんだ」

「そりゃそうさ。値上げはどことどこで相当に慎重になる。うちだって、全部のせ」ラーメンの値段を倍にできるんだって、メニューから外したりはしなかったさ」

「そうだよな。ただ、全部のせ」は、倍の値段でメニューに載せてもいいじゃないか。高いと思われたら注文されなくなるだけだ。選択権はお客様にある。でも、診療報酬は、単純に経費の合計から利益率をかけて算出するわけには……」

「お前なら。たとえ注文がなかったって、メニューに載せたらそれなりに仕込まなきゃいけないんだ。だから、そんな単純なものじゃない。こつちだって、客のニーズとか、他店の動向とかリサーチして、いろいろ工夫してやってんだ。小さな町中華だからって、あんまりバカにしてくんない」

ユウキに挑むような眼を向けられ、カズマはバツが悪かった。言葉に詰まっていたカズマにユウキは表情を崩してどんぶりを差し出した。

「はい、それでこれが新メニュー。食べて感想を聞かせてくれ。もちろんお値段についても」



ユウキがカズマの発言で不快になったのは間違いない。それでもそれを一瞬で飲み込み消化してしまうユウキの大きさが渡されたとんぶりの重さとしンクロした。

カズマは熟々の顔をすすった。うまかった。味について口出しできるものではないので、値ごろ感を素直に伝えた。薬味についてもあれこれ聞かれ、自炊の経験などを交えて答えた。こんなことでユウキの役に立てるのが嬉しかった。

満腹感は即座に眠気を誘う。当直明けの体は限界だった。帰宅してすぐにリサは読めなかった。とりあえず眠った。

カズマは赤い沼にはまっているようだった。

病院が赤字と知らされて、診療報酬と経費を算出してみたら、釣り合いが全く取れていなかった。それを解消するためには、収入を増やさなければなら

ないが、診療報酬は2年に一度しか改定されず、しかも

その改定割合は1%にも満たない注。それは、厚労省が特別にケチなわけではない。診療報酬を決める仕組みは、医

療側だけでなく、患者や保険者という支払い側からの要望も踏まえたものであることを、カズマはリサを読んで知っ

た。要は財政状況なのだ。注 令和8年度の診療報酬改定では3.09%の大幅なプラスとなった。1.7%が賃上げ分、0.76%が物価対応分などとなっている。

\*\*\*

国民医療費とは、「当該年度内の医療機関における保険診療の対象となり得る傷病の治療に要した費用を推計したもの」である。国民医療費はGDPに対する比率で見る。過去から現在までの推移を見ると、1961年の国民皆保険制度開始時から70年代半ば（オイルショックまでの高度経済成長期）までは4%未満であった。80年代から90年前半にかけての経済の安定成長期は、病床規制や医学部定員抑制、薬価引き下げなどの医療費抑制政策により5%台に抑制されていた。その後、バブル崩壊、小泉医療改革、アベノミクスを経て上昇し続けた。近年では、診療報酬改定率の上げ幅を極限まで圧縮して、なんとか8%台に抑え込んでいる。

12.5a ロダンM 行送 (22) H  
天地 84.5ミリ

10.5a 8太 B10

26w 話

注 令和8年度の診療報酬改定では3.09%の大幅なプラスとなった。1.7%が賃上げ分、0.76%が物価対応分などとなっている。

行送 (18) H

国家財政の中の医療費割合の推移を示す図

(前後)  
100% → 105%

0.2ミリタイ・ベタ

\*\*\*

カズマは、代理で出席した部長会で院長が赤字決算を報告したときの淡々とした会議室の空気を思い返していた。あのときの出席者は皆、この財政状況と、診療報酬がさほどのプラス改定が得られるわけではないことを熟知していたのだ。ただ、この赤い沼から脱出するためにもがきたかった。収入が増えることは期待できず、かつ医療材料費などの支出も減らせないと、何かほかに収入を増やしたり支出を減らしたりする手はないのか……。

実は、カズマの手元には「みんなのこども病院」の損益計算書があった。代理で出席した部長会で配布されたものを部長に渡す前にコピーしていたのだ。日本の診療報酬や財政といったところは規模が大きすぎて手に余る。まずは身近なところから、「みんなのこども病院」の今年度の損益計算書から読み解こうと思った。

(つづく)  
26w 話